

国体と全国障害者スポーツ大会の融合について

1 略称「国体・障スポ」を決定・使用

国体と障害者スポーツ大会の融合を推進するため、略称を「国体・障スポ」に決定し、融合をPR

「国体・障スポ」を使用することにより、全国障害者スポーツ大会の周知を図り、国体と同様に盛り上げていく。

両大会を示す略称として「国体・障スポ」を使用するのは全国初

2 国体会期中に障スポの競技を開催（別紙参照）

障スポの正式競技（車椅子バスケットボール）とオープン競技（車いすテニス）を国体の会期中に開催する。正式競技を前倒し開催するのは全国初

障スポの正式競技を国体競技と同じ会場で連続して開催することにより、国体と障スポの融合の推進を広く県内外にアピールする。

3 国体・障スポの開催期間を含む県民スポーツ交流期間を設定

国体・障スポの約1か月前からを県民スポーツ交流期間と設定し、障がいのある人もない人も一緒にスポーツを楽しむ機会を提供するなど、国体と障スポの融合を図る。

国体・障スポの開催期間を含むスポーツ交流期間を設定するのは全国初

- ・誰もが参加できるデモンストラレーションスポーツ競技の実施
- ・ボランティアやおもてなしブースの運営にスタッフとして参加
- ・学校、企業等の障スポの競技の観戦、応援を実施

4 平成29年度当初予算事業

平成29年度は、国体・障スポの融合に向けたバリアフリー環境の整備や機運醸成を図るため、野外の競技会場等で使用する可搬式の車椅子用トイレ等の購入、障スポをPRするプロモーションビデオの作成、市町が実施する融合推進イベントへの助成などを実施する。

	(千円)
・競技会場等で使用する可搬式車椅子トイレ等の購入	15,884
・障スポプロモーションビデオの作成	1,188
・市町が実施する融合推進イベントへの支援	2,100

